

令和7年8月24日

令和7年度 第1回 愛知県予防接種基礎講座

特別な背景がある人に対する予防接種



名古屋大学医学部附属病院
中央感染制御部 奥村俊彦

本日扱う“特別な背景”

早産児・低出生体重児

急性疾患に罹患中または罹患後

免疫不全状態

けいれんの既往

アレルギーのある児

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

妊婦・授乳婦

質問事項
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 () g 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳児健診で異常があるといわれたことがありますか
今日体に具合の悪いところがありますか 具体的な症状を書いてください ()
最近1カ月以内に病気にかかりましたか 病名 ()
1カ月以内に家族や遊び仲間に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか (病名)
生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいましたか
1カ月以内に予防接種を受けましたか 予防接種の種類 ()
生まれてから今までに先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか 病名 ()
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか
ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃 そのとき熱が出ましたか
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか 予防接種の種類 ()
近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか
6カ月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか
今日の予防接種について質問がありますか

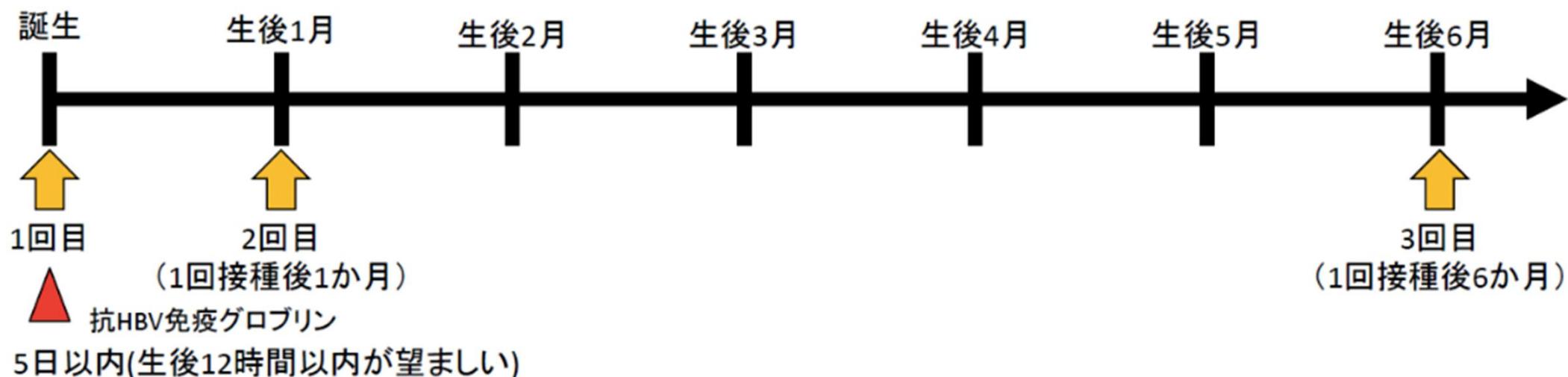
早産児・低出生体重児

予防接種の原則：一般乳児と同様

- ワクチンの投与時期は**暦年齢**に従う
- 接種量は添付文書に従い、**低体重による減量**は行わない

早産児・低出生体重児 B型肝炎母子感染予防

- 出生体重 $\geq 2,000\text{g}$ の場合
正期産・正常体重児と同様の対応



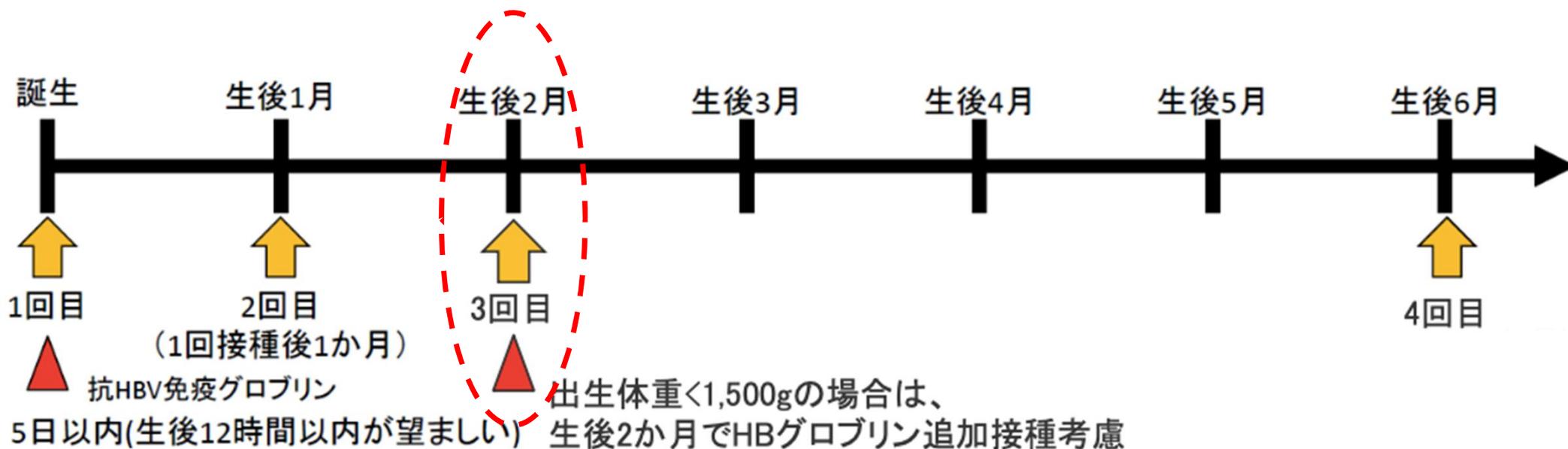
<https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/hbboshikansen.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/dl/yobou140317-1.pdf>

早産児・低出生体重児 B型肝炎母子感染予防

- 出生体重 < 2,000g の場合

HBVワクチンの計4回接種を考慮（保険適用外）



<https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/hbboshikansen.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/dl/yobou140317-1.pdf>

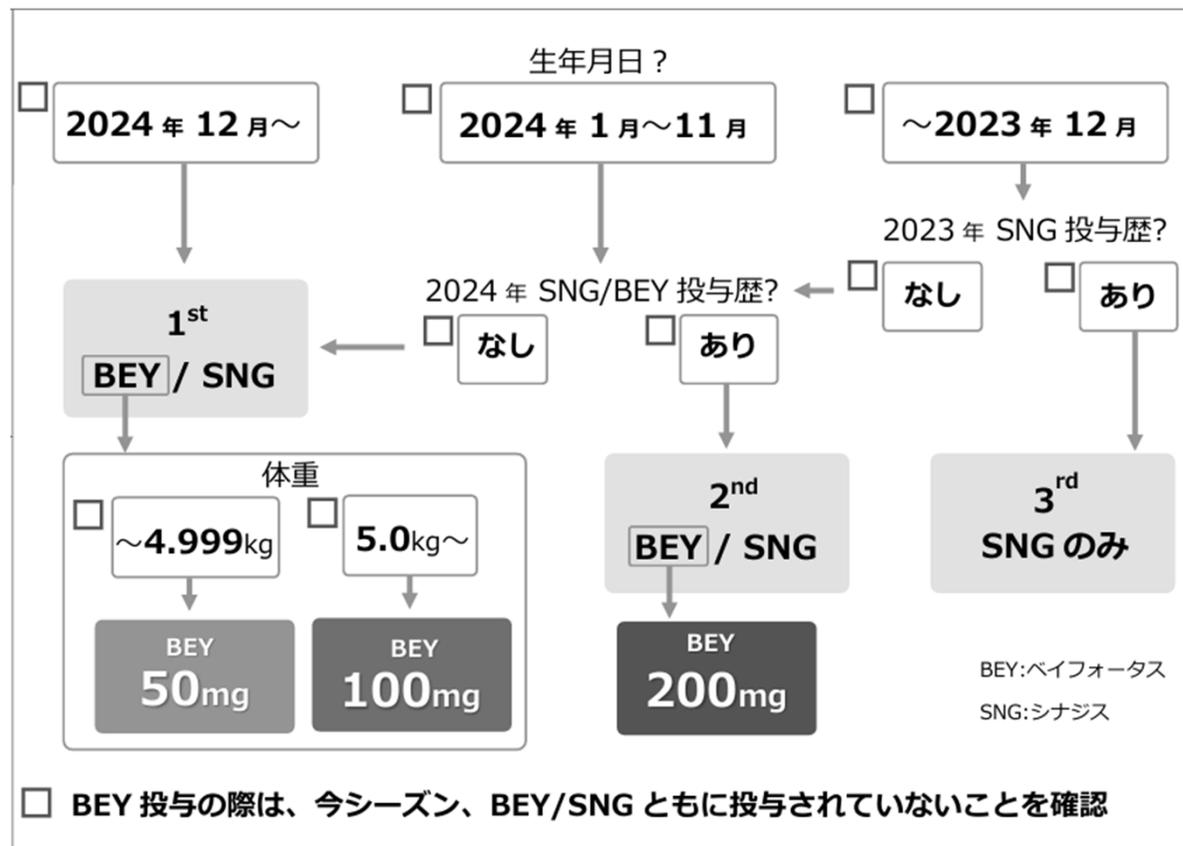
早産児・低出生体重児 RSウイルス感染予防

- これまで使用されていたパリビズマブ（シナジス®）に加え、2024年5月22日からニルセビマブ（バイフォータス®）の使用が可能となった
- ニルセビマブは半減期が長く、1シーズンに1回の投与で十分である
- ニルセビマブは生後初回のRSウイルス感染流行期のすべての新生児および乳児に適応がある（が保険適用は限られている）

他の予防接種のスケジュール変更は必要ない

早産児・低出生体重児 RSウイルス感染予防

- 在胎期間28週以下の早産で、12か月齢以下
- 在胎期間29週～35週の早産で、6か月齢以下
- 過去6か月以内に気管支肺異形成症の治療を受けた24か月齢以下
- 24か月齢以下の血行動態に異常のある先天性心疾患
- 24か月齢以下の免疫不全
- 24か月齢以下のダウン症候群 など



保険適用や投与量は複雑なので要確認

急性疾患に罹患中または罹患後

明らかに発熱している場合（37.5℃以上）、
重篤な急性疾患にかかっている場合は接種不可

- 当該疾患が軽快・治癒した後は接種が可能
- 急性疾患であっても、軽症と判断できる場合（微熱、軽い上気道症状、軽い下痢など）は接種が可能

急性疾患に罹患中または罹患後

ウイルス性疾患罹患後はある程度期間をあける

- 目安として、治癒後**1～2週間**の間隔をあける（明確な基準はない）
- 感染によって免疫機能が一時的に低下すると考えられているウイルス性疾患
 - 麻疹 → 治癒後**4週間**程度あける
 - 風疹、水痘、おたふく → 治癒後**2～4週間**程度あける

本日扱う“特別な背景”

早産児・低出生体重児

急性疾患に罹患中または罹患後

免疫不全状態

けいれんの既往

アレルギーのある児

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

妊婦・授乳婦

質問事項
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 () g 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳児健診で異常があるといわれたことがありますか
今日体に具合の悪いところがありますか 具体的な症状を書いてください ()
最近1カ月以内に病気にかかりましたか 病名 ()
1カ月以内に家族や遊び仲間に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか (病名)
生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいましたか
1カ月以内に予防接種を受けましたか 予防接種の種類 ()
生まれてから今までに先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか 病名 ()
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか
ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃 そのとき熱が出ましたか
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか 予防接種の種類 ()
近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか
6カ月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか
今日の予防接種について質問がありますか

免疫不全状態

免疫不全には原発性と続発性がある

原発性	続発性
<ul style="list-style-type: none">● 重症複合免疫不全症● X連鎖無ガンマグロブリン血症● 重症先天性好中球減少症● 慢性肉芽腫症：	<ul style="list-style-type: none">● 免疫抑制薬● 生物学的製剤● 化学療法● 無脾症：

免疫不全状態 原発性免疫不全症

- 原発性免疫不全症 (Primary Immunodeficiency : PID)
→ 先天性免疫異常症 (Inborn Errors of Immunity : IEI)
IEIは2022年に485種類に分類されており、その数は年々増加している
- 免疫異常の種類/程度によって接種可能なワクチンが異なる
まとめて対応することは困難であり個々の症例において検討する必要がある

ワクチン接種可否の判断については主治医に相談

免疫不全状態 原発性免疫不全症

- 一つの基準として
細胞性免疫が低下している場合は、生ワクチンの接種は行わない

〈細胞性免疫能の評価〉

- ✿ CD4陽性細胞数が500/ μ L以上または25%以上
- ✿ CD8陽性細胞が200/ μ L以上
- ✿ PHA/ConAに対するT細胞反応が正常

免疫不全状態 原発性免疫不全症

- 各疾患ごとの対応は



免疫不全状態 免疫抑制薬の投与

●免疫抑制薬投与前

- ・**不活化ワクチン**は通常通り**接種可能**だが、可能であれば治療開始前に
- ・**弱毒生ワクチン接種**から免疫抑制療法開始までは**3週間程度**空ける

●免疫抑制薬投与中

- ・不活化ワクチンは通常通り接種可能
- ・**生ワクチンは原則禁忌**
- ・メトトレキサート使用中で必要と判断された場合は一部接種可能

免疫不全状態 生物学的製剤の投与

- 可能であれば治療導入前に予防接種を行う
- **治療導入から治療中止数か月後までは生ワクチン禁**
- 妊娠後期に生物学的製剤（特にTNF阻害薬）を投与された場合、出生児は6か月に達する前の生ワクチン接種は控える
 - ・胎児移行による児への影響が考えられるため
 - ・米国小児科学会では、母体の最終投与から12か月は生ワクチンを避けるとしている

免疫不全状態 ステロイド使用中

- プレドニゾン換算で
連日2mg/kg/日以上
or
体重10kg以上の小児では20mg/日以上
- ×14日以上

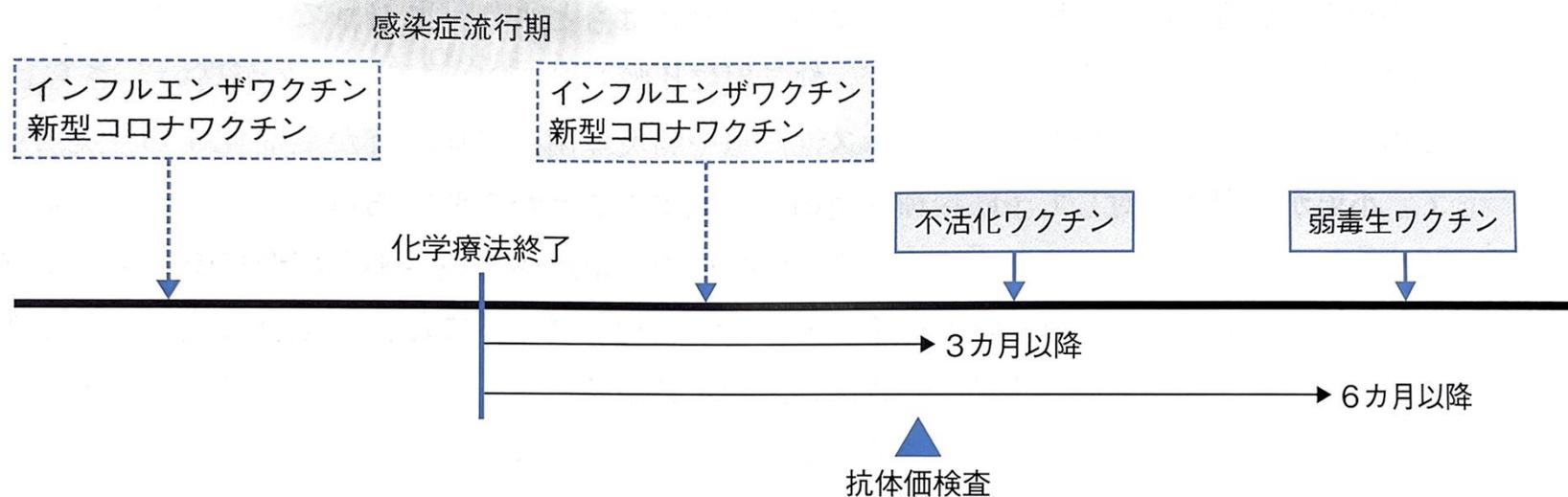
→中止後**4週間**は生ワクチンの投与を控える場合が多い

- 吸入薬や外用薬としての副腎皮質ステロイドは、通常ワクチンの接種に影響するような免疫低下は起こさない

免疫不全状態 白血病、悪性腫瘍

- 化学療法により二次性ワクチン不全が発生する
- 化学療法終了後に血清抗体価を測定し、予防接種の必要性を判断する

推奨されるワクチン接種時期



免疫不全状態 造血幹細胞移植後

- 不活化ワクチン

移植後3か月（6か月もしくは12か月）が経過し、GVHD増悪がない場合

- 生ワクチン

移植後24か月が経過し、慢性GVHDがなく、免疫抑制薬を使用していない場合

主治医に相談し、接種可能なものを接種していく

免疫不全状態 造血幹細胞移植後

名古屋市 City of Nagoya

名古屋市役所 郵便番号:460-8508 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 電話番号:052-961-1111 (代表) 所在地、地図

文字の大きさ 大きくする 元に戻す 髣ふりがな

サイトマップ このウェブサイトの使い方 ご意見・お問い合わせ

トップページ 暮らしの情報 観光・イベント情報 市政情報 事業向け情報

トップページ ▶ 暮らしの情報 ▶ 健康と子育て ▶ 健康づくりのために ▶ 感染症予防・予防接種 ▶ 予防接種 ▶ 任意予防接種 ▶ (現在の位置) 医療行為により抗体が失われた小児の方へのワクチン再接種費用助成制度について ▶

医療行為により抗体が失われた小児の方へのワクチン再接種費用助成制度について

SNSへのリンクは別ウインドウで開きます

Facebookでシェア X (旧Twitter) でポスト LINEで送る

このページを印刷する ページID:103865 最終更新日:2024年10月2日

骨髄移植手術などの医療行為により、既に接種された定期予防接種の効果が期待できないと医師に判断され、任意で予防接種の再接種を希望する方は、**事前に申請することで**予防接種の費用助成を受けることができます。

対象者

以下のすべての要件を満たす方を対象とします。

- 骨髄移植手術などの医療行為により、**接種済みの定期予防接種**の効果が期待できないと医師に判断されていること
- 本市に住民登録があること
- 20歳未満であること (ただし、一部の予防接種には年齢上限があります。)

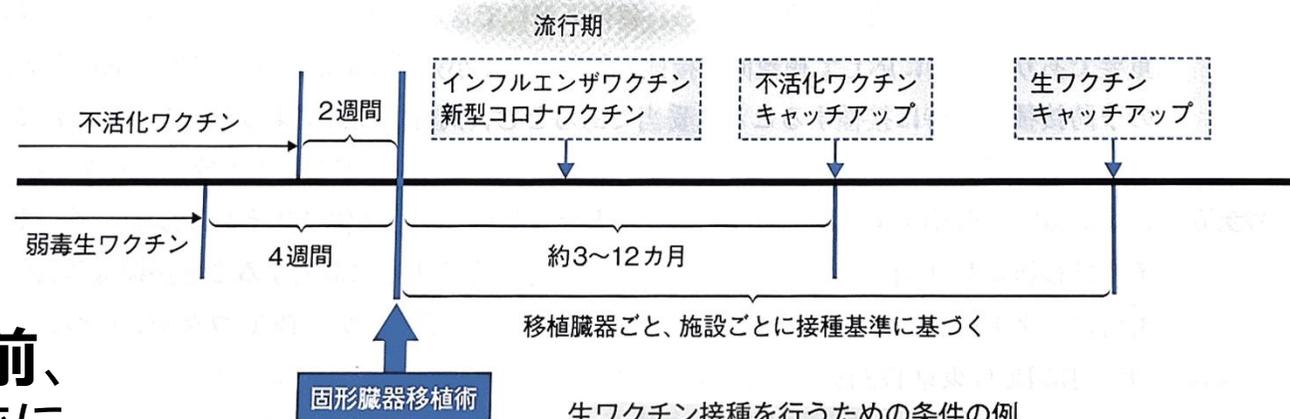
自治体の助成も確認する

<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000103865.html>

免疫不全状態 固形臓器移植後

- 可能な限り移植術前に接種を行う

- 不活化ワクチンは2週間前、生ワクチンは4週間前までに接種を行う。



生ワクチン接種を行うための条件の例

項目	臨床情報、検査値など
・移植後の期間	6か月から2年以上
・拒絶反応がなく安定している状態	1~6か月以上
・感染症	なし
・リンパ球数	幼児 > 1500/mm ² 学童 > 700/mm ²
・CD4陽性細胞数	幼児 > 700/mm ² 学童 > 500/mm ²
・血清IgG値	> 500 mg/dL
・PHAリンパ球幼若化反応	正常

免疫不全状態 無脾症患者

外科的無脾症	外傷による脾損傷など
機能的無脾症	鎌状赤血球症、サラセミアなど
先天性無脾症・多脾症	心疾患を合併することが多い

- 莢膜を有する細菌の感染症を起こしやすい
- 特に**肺炎球菌**、**インフルエンザ菌**、**髄膜炎菌**に注意が必要
- 脾摘後重症感染症の約半数は肺炎球菌による

- 脾摘後1～2年以内が最も感染リスクが高いが、そのリスクは一生続く

免疫不全状態 外科的に脾臓摘出される場合

- 予定手術の場合、手術2週間前までにワクチン接種を行う
- 緊急手術の場合、手術後2週間以上あけてワクチン接種を行う

● 肺炎球菌ワクチン

結合型（PCV）は任意接種、多糖体（PPSV）は保険適用がある

CDCの推奨（成人）

PCV未接種	PCV15→PPSV23 or PCV20 or PCV21
PCV13接種済	1年以上あけてPCV20 or PCV21
PPSV23接種済	1年以上あけてPCV15 or PCV20 or PCV21
PCV13とPPSV23接種済	5年以上あけてPCV20 or PCV21

<https://www.cdc.gov/vaccines/hcp/imz-schedules/adult-notes.html>

免疫不全状態 外科的に脾臓摘出される場合

- **髄膜炎菌ワクチン**

2歳以上で接種を検討する（任意接種）

5年ごとに追加接種

- **Hibワクチン**

5歳以上で接種歴があれば脾摘後の追加接種は不要

免疫不全状態

●コクーン戦略 (Cocoon Strategy)

周囲の人たちが免疫を持つことで免疫不全者をワクチンで防げる病気から守ろうという戦略

Cocoon = 繭



本日扱う“特別な背景”

早産児・低出生体重児

急性疾患に罹患中または罹患後

免疫不全状態

けいれんの既往

アレルギーのある児

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

妊婦・授乳婦

質問事項
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 () g 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳児健診で異常があるといわれたことがありますか
今日体に具合の悪いところがありますか 具体的な症状を書いてください ()
最近1カ月以内に病気にかかりましたか 病名 ()
1カ月以内に家族や遊び仲間に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか (病名)
生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいましたか
1カ月以内に予防接種を受けましたか 予防接種の種類 ()
生まれてから今までに先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか 病名 ()
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか
ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃 そのとき熱が出ましたか
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか 予防接種の種類 ()
近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか
6カ月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか
今日の予防接種について質問がありますか

けいれんの既往 熱性けいれん

- 現行の予防接種は**すべて接種してよい**
- 接種後発熱に伴う熱性けいれん再発の可能性は考慮する

✿ 特に発熱に注意すべきタイミング

麻疹など生ワクチン → 接種後2週間以内（特に7～10日）
肺炎球菌など不活化ワクチン → 1週間以内（特に0～2日）

- 当日の体調に留意すればすべての予防接種を最終発作からの期間に関わらず速やかに接種してよい

けいれんの既往 てんかん

- コントロールが良好なてんかんをもつ小児では、体調が安定して主治医（接種医）が適切と判断した時期に現行のすべてのワクチンを接種してよい
- 発熱によって痙攣発作が誘発されやすいてんかん患児などでは、発熱が生じた場合の発作予防策と万一発作時の対策を個別に設定・指導しておく

本日扱う“特別な背景”

早産児・低出生体重児

急性疾患に罹患中または罹患後

免疫不全状態

けいれんの既往

アレルギーのある児

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

妊婦・授乳婦

質問事項
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 () g 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳児健診で異常があるといわれたことがありますか
今日体に具合の悪いところがありますか 具体的な症状を書いてください ()
最近1カ月以内に病気にかかりましたか 病名 ()
1カ月以内に家族や遊び仲間に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか (病名)
生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいましたか
1カ月以内に予防接種を受けましたか 予防接種の種類 ()
生まれてから今までに先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか 病名 ()
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか
ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃 そのとき熱が出ましたか
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか 予防接種の種類 ()
近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか
6カ月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか
今日の予防接種について質問がありますか

アレルギーのある児

- 接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかにある者は、接種不適合者
- 接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある者は、接種要注意者
- 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎などがあるだけの場合は、通常接種可能

アレルギーのある児

- 鶏卵由来成分

インフルエンザワクチン、黄熱ワクチン
鶏卵タンパクの混入量は極めて微量

接種可能

- 乳由来成分

麻疹・風疹ワクチン、日本脳炎ワクチン
安定剤として乳糖が含まれるが、牛乳アレルギー患者のアレルゲンではない

- ゼラチン

黄熱ワクチン、狂犬病ワクチン、経鼻弱毒生インフルエンザワクチン

接種注意

本日扱う“特別な背景”

早産児・低出生体重児

急性疾患に罹患中または罹患後

免疫不全状態

けいれんの既往

アレルギーのある児

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

妊婦・授乳婦

質問事項
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 () g 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳児健診で異常があるといわれたことがありますか
今日体に具合の悪いところがありますか 具体的な症状を書いてください ()
最近1カ月以内に病気にかかりましたか 病名 ()
1カ月以内に家族や遊び仲間に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか (病名)
生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいましたか
1カ月以内に予防接種を受けましたか 予防接種の種類 ()
生まれてから今までに先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか 病名 ()
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか
ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃 そのとき熱が出ましたか
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか 予防接種の種類 ()
近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか
6カ月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか
今日の予防接種について質問がありますか

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

- 免疫グロブリン製剤や輸血製剤の投与後、**3～11か月以内の生ワクチン接種は免疫原性が低下する**
- 一部の生ワクチン（経口生ワクチン、BCG、経鼻弱毒生インフルエンザワクチン、黄熱ワクチン）と不活化ワクチンに対しては影響がないため、通常通り接種可能

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

●免疫グロブリンと生ワクチンとの間隔

	投与方法	投与量	間隔 (月)
破傷風免疫グロブリン (破傷風予防)	筋注	250U (10mg IgG/kg)	3
B型肝炎免疫グロブリン (B型肝炎予防)	筋注	0.06mL/kg (10mg IgG/kg)	3
免疫グロブリン (水痘予防)	静注	400mg/kg	8
免疫グロブリン (免疫性血小板減少症治療)	静注	400~1,000mg/kg	8~10
免疫グロブリン (川崎病治療)	静注	2,000mg/kg	11

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

● 輸血製剤と生ワクチンとの間隔

	投与量	間隔 (月)
洗浄赤血球	10mL/kg (IgGとしては無視可能)	0
赤血球	10mL/kg (10mg IgG/kg)	3
濃厚赤血球	10mL/kg (60mg IgG/kg)	6
全血	10mL/kg (80~100mg IgG/kg)	6
血漿 血小板製剤	10mL/kg (160mg IgG/kg)	7

本日扱う“特別な背景”

早産児・低出生体重児

急性疾患に罹患中または罹患後

免疫不全状態

けいれんの既往

アレルギーのある児

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

妊婦・授乳婦

質問事項
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 () g 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳児健診で異常があるといわれたことがありますか
今日体に具合の悪いところがありますか 具体的な症状を書いてください ()
最近1カ月以内に病気にかかりましたか 病名 ()
1カ月以内に家族や遊び仲間に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか (病名)
生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいましたか
1カ月以内に予防接種を受けましたか 予防接種の種類 ()
生まれてから今までに先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか 病名 ()
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか
ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃 そのとき熱が出ましたか
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか 予防接種の種類 ()
近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか
6カ月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか
今日の予防接種について質問がありますか

妊婦・授乳婦

- 妊婦に対して

- (1) **生ワクチン接種は原則として禁忌**である
ワクチンウイルスが胎児へ移行する危険性がある
- (2) **不活化ワクチン接種は可能**である（有益性投与）

妊婦・授乳婦

● 妊婦に対して推奨されるワクチン

RSウイルス（アブリスボ [®] ）	妊娠24～36週（32～36週推奨）に接種
百日咳（三種混合）	妊娠27～36週の早い時期に推奨
インフルエンザウイルス	妊娠中は重症化のリスクが高い 児にも抗体が移る 流行期に接種、どの妊娠期でも接種可
新型コロナウイルス	妊娠中は重症化のリスクが高い 乳児のCOVID-19による入院も防ぐ どの妊娠期でも接種可

妊婦・授乳婦

● 授乳婦に対して

生ワクチン接種も不活化ワクチン接種も可能

黄熱ワクチン接種をした授乳婦の児が急性の神経感染となった報告があり、黄熱病流行地域への渡航が避けられない場合のみに接種

風疹ワクチンは母乳に分泌されることが確認されており、児に対して無症候性感染を起こすが、臨床的に問題となることはない

むしろ風疹抗体価の低い（HI16倍以下）妊婦では産褥期のワクチン接種が勧められる

本日扱う“特別な背景”

早産児・低出生体重児

急性疾患に罹患中または罹患後

免疫不全状態

けいれんの既往

アレルギーのある児

免疫グロブリン製剤や輸血製剤投与後

妊婦・授乳婦

ありがとうございました

質問事項	
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか	
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします	
出生体重 () g	分娩時に異常がありましたか
	出生後に異常がありましたか
乳児健診で異常があるといわれたことがありますか	
今日体に具合の悪いところがありますか	
具体的な症状を書いてください ()	
最近1カ月以内に病気にかかりましたか	
病名 ()	
1カ月以内に家族や遊び仲間に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか (病名)	
生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいましたか	
1カ月以内に予防接種を受けましたか	
予防接種の種類 ()	
生まれてから今までに先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか 病名 ()	
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか	
ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃	
そのとき熱が出ましたか	
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか	
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか	
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか	
予防接種の種類 ()	
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか	
6カ月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか	
今日の予防接種について質問がありますか	